

H30.11.17《兵庫支部》 「学び合う教師の熱き想いを明日の保育へ」

講師：中谷 奈津子 先生（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授）

演題：「保護者とつくる育ちの場 ～幼稚園における保護者主体の活動から～」

木々が色つき、深まる秋の中で神戸大学附属幼稚園で公開保育と協議、講演会と有意義な研修会が開催されました。参加者は169名、内全幼研兵庫支部の会員80名でした。

午前中は、「遊びの中の学びを探る～資質・能力の発揮・伸長を支えるために～」のテーマのもと、公開保育が行われました。秋の気配が感じられる園庭や様々な素材、子供たちが親しんでいる楽しい音楽など、工夫された環境にかかわって遊ぶ子供たちの様子をゆっくりと観察させていただきました。

午後からは、同じ遊びを見た参観者たちと一緒に、子供が何を学んでいるのか、子供たちの見せる姿は「自己発揮なのか、まさに伸長している姿なのか・・・」熱い論議・協議を交わしました。さらに、子供たちの学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で分類してきました。このことで、さらに協議が盛り上がっていきました。



中谷先生の講演会では、多くの保護者が「子育てを知らないまま親になる」現状や、「子どもを自分の分身だと思う父親」は育児をしない傾向にあるという調査結果などをお聞きし、改めて保護者の実態に心を向けてかかわる必要性を感じました。また、神大附属幼稚園での「お父さん企画」の実践は大変興味深く聞き入りました。子供を基地として幼稚園の中に参画していく父親の姿や、父親に幼稚園生活を説明する子供の姿が写真で紹介されました。よくある光景ですが、この光景を「家庭での役割との逆転現象の中で、子供の効力感が高まっていく」姿と説明していただきました。保護者の保育への参画の意味や重要性を深く考えさせられました。



さらに、親も子も「誰かの役に立つ自分（自己肯定感）」という感覚が高まっていく過程が、写真やスライドからよく分かりました。地域の子育て力が、各園で実施している保護者参画の保育実践から少しずつ高まっていくのではないかと感じました。

中谷先生、子育て支援の多くのヒントを与您いただきました。ありがとうございました。